

令和5年度 南アルプス市立櫛形北小学校 学校関係者評価書

令和5年9月4日(月)
学校関係者評価委員会作成

第1回学校関係者評価委員会

日時 令和5年8月24日(木)

会場 櫛形北小学校図書室

評価者 学校関係者評価委員

【学校評議員】 横小路 淳一 (元中学校校長) 野田 佳代子 (主任児童委員)

長澤 光 (元中学校校長)

【各地区長】 山本 武志 (曲輪田区長) 深澤 眞 (上宮地区長)

小林 直樹 (桃園区長)

【PTA】 東條 友紀 (PTA副会長) 森 恵美 (PTA母親代表)

依田 友理 (PTA母親代表)

【学校】 志村 泉 (校長) 佐野 良彦 (教頭)

内容 1 学校側からの提案

- ① 学校評価の方法について
- ② 教職員自己評価の内容と結果について
- ③ 児童アンケートの内容と結果について

2 協議

- ① 学校評価への全体評価, 項目ごとの評価・達成状況について
- ② 学校教育全般について

《学校関係者評価書》

1 全体的な評価について

教職員の自己評価や児童へのアンケート調査の結果を見ると、いずれの評価においても肯定的評価が多く見られている。この結果から櫛形北小学校の教育活動は、概ね適正に行われていると考えられる。しかしながら、否定的評価率がやや高い内容の項目も存在しているので、それらを改善できるように具体案を明確にし、特に次の3点において改善に努めていただきたい。

- ① アンケートの結果や話し合いをもとに、取り組みを焦点化すること。
- ② 不安や悩みを抱えている子どもたちをしっかりと支えること。
- ③ 子どもたちの様々な個性を理解し、よさをほめて育てること。

2 評価委員会の中で委員の皆様から出されたおもな意見

○ 児童アンケートについて

【学校生活】に関わって

- ・ 「学校が楽しい」は、「確かな学力」の「勉強がわかる」によるところが大きいと思う。よって、「学校が楽しい」が高評価ということは、学校がわかる授業を行っているということだと思う。
- ・ 家庭も学校も子どもたちの楽しい居場所であってほしい。相談できる友だちや相談できる先生がいてよい。

【確かな学力】に関わって

- ・ 「授業中に考えを伝える」で否定的評価が高いが、どうしても個人差があり、みんなが同じようという訳にはいかないと思う。改善をしていくわけだが、焦らないほうがよい。
- ・ 「家に帰って勉強」の項目では、家庭学習の定着が見られ、素晴らしいことだと思う。

【健やかな体】に関わって

- ・ 昨今、睡眠不足の児童が多いといわれている。家庭での生活リズムを確立することだと思う。

【その他】に関わって

- ・ これから携帯はなくてはならないものになっていく。SNS等の情報モラルの徹底は避けては通れないことなので、今後とも指導をお願いしたい。
- ・ 情報が入り乱れている昨今、スマートフォンによる犯罪も多いので、より注意が必要。ゲーム等による課金についても早い時期から指導が必要だと思う。
- ・ スマートフォンを持たせるのは、家庭の責任である。学校に頼らずに、保護者指導のもと、管理してほしい。

○ 職員による学校評価について

【学校経営・学校運営への参画】に関わって

- ・ 昨今ますます個性豊かな児童が多くなってきたようなので、さらなる取り組みをお願いしたい。

【学習指導】に関わって

- ・ めあての提示と評価は、とても大事な授業の要素だと思う。若い、ベテランを問わず、常に意識して授業を創るよう指導してほしい。児童には、目標→実行→評価→反省等の繰り返しが必要であろう。
- ・ 学校にいろいろなものが入ってくる。ICTや最近ではAIなど、ついていけない部分があっても当然かと思うが、チームとして乗り越えていくしかないと思う。

【生徒指導・生活指導】に関わって

- ・ 様々な特性をもつ児童への対応は、それだけで大変だと思うが、外部の知識も総動員してがんばってほしい。
- ・ 児童に対し積極的な関わりを持ち、一人ひとりに寄り添ってもらっていることに感謝したい。

【保護者・地域との連携】に関わって

- ・ 学校の様子が、学校通信の回覧板を通して知ることができ、大変うれしく思う。これからもお願いしたい。
- ・ 地域の教育力を生かすことはなかなか難しいと思う。学校で何を望むかを検討し、教育委員会に人材の紹介をお願いしたらどうか。

【小中一貫教育】に関わって

- ・ Simpleプログラムだが、ソーシャルスキルを身につけるためにもよい取り組みだと思う。
- ・ 共に学び合い、対話することはなかなか難しいことではあるが、それぞれ個性を持っているので、対応をお願いしたい。

【働き方改革】に関わって

- ・ 「やらなくてもいいこと」を見つけるしかないと思う。
- ・ 若い先生は無理せず、他の先生に協力を求めて仕事をしていると思う。コミュニケーションをとって進めてほしい。

○ その他、アンケート全般について

- ・ 不登校や集団になじむことが困難だったり、問題行動を抱えたりする子どもがいるのは、どういことが子どもたちの内側で起きているのか、また過去にあったのか、関わりの中で見つけて対応できたら、さらに良い方向へ向かうことができるのではないかと感じた。子どもたちにとって、心から楽しく学びたい場になるように、家庭・学校・地域が積極的にかかわって環境を整えていく必要があるのではないかと感じている。
- ・ 小学校の6年間で子どもたちは人として成長する大事な時期である。子どもたちは宝である。地域と先生方とで子どもたちを見守り、関わりたいと思っている。
- ・ 低・中・高学年別の評価アンケートがほしかった。子どもたちの発達段階を考えると、もっと考察が深まっていくと思った。

《今後の改善策・重点課題》

児童アンケートや職員による学校評価，評価委員会での話し合いを踏まえ，楡形北小学校では，次の点において重点的に取り組み，学校改善を進めていきます。

- ・ 授業中に自分の考えを伝えることができるよう，「あやめっ子タイム」で児童相互のよりよい関係づくりに努めるとともに，校内研究のテーマである『学び合い』やICT機器を効果的に用いた授業づくりを行う。
- ・ 毎時間の授業において，その時間の学習内容が定着するよう，めあての提示とふりかえりを確実に行う。
- ・ 地域の教育力や人材を生かすために，教育委員会の協力を仰ぎながら，教育活動に携わっていただける人材の発掘に努める。
- ・ 全職員がこれまで以上に児童理解に努める。一人一人の悩みや不安に寄り添うとともに，個性を認めてよさをさらに伸ばす指導を心がける。